

1999.3.28

第273回市響 室内楽の午後
市川市文化会館 新人演奏会出演者によるコンチェルト

共催 市川市教育委員会 市川市文化会館 市川交響楽団協会

1999年3月28日(日)

午後2時開演

市川市文化会館大ホール



ICHIKAWA SYMPHONY ORCHESTRA

853.9991

第273回市響

室内楽の午後

カール・マリア・フォン・ウェーバー
歌劇「オベロン」序曲

マックス・ブルッフ
ヴァイオリン協奏曲第1番

I 序奏

II アダージョ

III フィナーレ

ヴァイオリン独奏 船津たかね

ヴォルフガング・アマデウス・モーツァルト
交響曲第36番「リンツ交響曲」

kv. 425

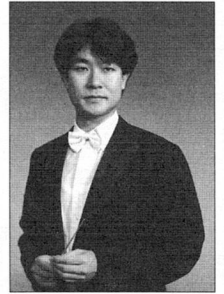
I アダージョ

II アンダンテ

III メヌエット

IV プレスト

指揮 小林幸人
市川交響楽団



指揮
小林幸人

1958年、千葉県市川市生まれ。
東京音楽大学卒業後、ホルン奏者を経て、桐朋学園大学で指揮を学ぶ。指揮を、紙谷一衛、ホルンを、守山光三、宮田四郎、の各氏に師事。また在学中、飯守泰次郎、尾高忠明、小澤征爾、各氏のレッスンにも参加し、研鑽を積む。1990年より、東京オペラプロデュースの指揮者となり、内外著名指揮者のアシスタントを務め、後に「ヘンゼルとグレーテル」「カルメン」等を指揮した。1995年、ザルツブルクで開催されたジャパンウィークに、グローバルフィルハーモニックオーケストラの指揮者として参加し、好評を得る。近年は、東京フィルの定期演奏会の合唱指揮を行うなど、合唱音楽、宗教音楽にも取り組む。また、アマチュアの指導にも力を注ぎ、オーケストラ、吹奏楽、合唱、マンドリンなど十数団体の指揮者を務める。市川市南八幡に在住。

想像してみてください。

——深い森の中、濃い緑、それはもう黒に近いぐらいの密度の深緑。白い霧がその緑色を一層際立たせる。まるでそこに音というものはないかのように、森は静寂に包まれている。

突然、角笛の音が響く。決して大きくはないが、ゆるぎないその音は威厳に満ち、森の隅々まで拡がってゆく。ゆっくりと、水面の波紋のように。——オベロン王の角笛である。それに応えて、木々や草花がかすかに揺れる。眠っていた妖精たちが目を覚まし、羽をふるわせる——

これは序奏の部分の私のイメージです。

配役を発表しますと、

オベロン王の角笛 = もちろんホルン

木々や草花 = バイオリン他弦楽器

妖精たち = 木管楽器

ウェーバー
歌劇「オベロン」序曲
一瀬直美
(クラリネット)

それぞれが自分のキャラクターをうまく演じることができていればイメージするのも簡単なのですが……。みなさんは「オベロン」の世界を思い描くことができましたか？

このように幻想味溢れる個性と靈感に満ちた歌劇〈オベロン〉は、1826年にロマン派オペラの先駆者カール・マリア・フォン・ウェーバーにより作曲されました。先程の序奏部分だけで、あのように勝手な想像ができてしまうのだから、オペラ全曲はさぞかし素晴らしく今日も演奏されているのかというと、台本の稚拙さが原因して、また、代表作〈魔弾の射手〉の陰に隠れて全曲が上演されることはほとんどありません。しかし、序曲だけはロマン派序曲の傑作の一つとして、独立してよく取り上げられています。

ヴァイオリン独奏 船津たかね



千葉県市川市に生まれ、4歳よりヴァイオリンを始める。市川市立菅野小、第二中学を終え、桐朋学園音楽科に入学、同高校、大学を卒業。

在学中にヴァイオリンを吉川朝子、鷲見健彰、江藤俊哉氏に師事。大学3年の時、スペインの国際ムルシア音楽祭ヴァイオリンコンクールにおいて優勝。翌年スペイン国立交響楽団 (Orchestra Nacional de Espana) の定期演奏会にソリストとして招待され、演奏する。1990年、第1回パシフィック・ミュージック・フェスティバルにてパーンスタイ

ン指揮のもとでコンサートマスターを務める。1991年に渡英、奨学生としてロンドンのギルトホールスクールで4年間デイビッド・タテノ氏に学ぶ。その間、ロンドン交響楽団の研修生として1年間演奏活動に参加。その後同オーケストラと日本公演に参加。

現在、エディンバラを本拠地とするスコットランド室内合奏団の首席奏者を務める傍ら、ヨーロッパ、アメリカ、カナダ、イスラエルにおいて、ソロ、室内楽、オーケストラなど幅広い演奏活動を行っている。

ブルッフ ヴァイオリン協奏曲第1番 鈴木 薫 (ヴァイオリン)

今回市響が挑戦するのは、マックス・ブルッフの作曲によるヴァイオリン協奏曲第1番です。ブルッフは、ブラームスと同世代の作曲家で、数多くの作品がありますが、今日演奏される機会を持つものは、このヴァイオリン協奏曲第1番、スコットランド幻想曲、「コル・ニドライ」等の少数に限られてしまっています。実は私もヴァイオリン協奏曲を3曲も書いているのは知らなかった位です。今挙げた3曲は全て独奏のある曲なので、楽器の魅力を生かしたメロディを書くのが得意な人だったのかなあ、なんて思っています。

ブルッフはこの初演を自分の指揮で行った後、すぐに改訂を始め、1年間を費やして完成させました。改訂版の初演はブラームスの友人としても有名なヨーゼフ・ヨアヒムが担当しました。現在ではこの改訂版が有名で、メンデルスゾーンのヴァイオリン協奏曲に並ぶメロディの魅力、そしてブラームスのヴァイオリン協奏曲にも匹敵する深さと美しさを兼ね備えている現在でも非常に人気が高い曲です。

この曲は伝統的な3楽章形式ですが、メンデルスゾーンのヴァイオリン協奏曲と同様、全ての楽章が続けて演奏されます。又、冒頭にティンパニのppのロール打ちと木管による5小節の導入とヴァイオリン独奏による大変印象的なモノローグが置かれています。しかし、この部分以外にカデンツァはなく、ラロの「スペイン交響曲」やサン＝サーンスのヴァイオリン協奏曲第3番等と共通する、珍しい例です。

第1楽章、序奏。冒頭のモノローグはヴァイオリンの4番線(G線)の最低音のソから、高い3点のソまでをゆっくり上昇します。主題は重音を効果的に使った力強いもので、これに二短調の副主題が優しい下降音型で続き、普通はカデンツァが来る箇所にカデンツァはなく、そのまま次の楽章に入っていきます。

第2楽章、アダージョ。独奏ヴァイオリンが前の楽章から変口音を弾き続け、美しく始まります。途中で感情がたかぶって盛り上がりますが、最後はpppとなって閉じられます。

第3楽章、フィナーレ。第1ヴァイオリンがpで出す付点音による音型が次第に高揚していったところでソロが重音で主題を力強く出して始まります。エネルギーの指定通りの生命力にあふれた音楽で、しかもヴァイオリンの演奏技術が効果的に発揮できるように作られています。

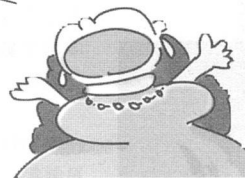
「ブルッフなんて知らないなあ」という方もいらっしゃるかも知れませんが、暫く前に、チャイコフスキーコンクールで1位になった諏訪内晶子さんが3楽章の初めの方の盛り上がりるところを弾くCMがありました。3楽章になったら聴き覚えのあるところが出てくるかもしれませんね。

この曲はオーケストレーションが難しいことで有名なので、ソリストの魅力に出来るだけ近付き、ソロと一体化する、というのがこの曲に於ける個人的な目標ではありますが、結果は皆様に委ねるとして、先ず、ご静聴下さいませ。

Ochilayo Presents!

モーツァルトは 花見弁当の味?

古屋文弘 (ファゴット)



当時の演奏会の様子はあらゆる点で現代とは異なっていました。今回は18世紀当時の演奏会での交響曲の扱われ方について考えてみましょう。

モーツァルト時代の演奏会

以下にありますのは1783年3月23日にウィーンで行われたモーツァルト主催の定期(予約)音楽会のプログラムです(この日は珍しくすべてモーツァルトの作品です)。

1. 新作「ハフナー」 交響曲の第1~第3楽章
2. ランゲ夫人の歌うアリア (音楽劇「イドメネオ」から)
3. モーツァルトの自作自演によるピアノ協奏曲 (第13番八長調)
4. アーダムベルガー氏の歌うオーケストラ伴奏付レシタティーヴォ
5. 「ポストホルン」 セレナードより第3楽章 (協奏曲楽章)
6. モーツァルト自作自演のピアノ協奏曲 (第5番二長調)
7. タイバー嬢の歌うアリア (音楽劇「ルーチョ・シッラ」より)
8. モーツァルトによるピアノ・ソロ (変奏曲を2曲)
9. ランゲ夫人の歌う新作のアリア
10. 新作「ハフナー」 交響曲の終楽章

なんと! ずいぶんバラエティーに富んでいますね。まるで現在よく行われる「何とか記念ガラ・コンサート」のようですね。いったい全部で何時間かかったんでしょうか? しかし、これは特別な「ガラ(お祭り)・コンサート」で

はなく、当時の標準的な曲目構成のプログラムなんです。このプログラムについて気が付いたことを挙げてみましょう。

- いきなり第一曲目に交響曲があって、しかも全楽章でない(2つに分けられてしまっている)
- オペラやその他のアリアが一番多い(10 or 9曲中4曲)
- 新作の初演曲も多い

演奏会での交響曲の役割?

実は、モーツァルトの時代の演奏会の特徴とは今日の演奏会のように、交響曲や管弦楽曲や協奏曲がメイン・プログラムとは考えられていませんでした。「演奏会に行く」ということはオーケストラの器楽作品を聴くことが目的ではなく、「プリマドンナや人気の歌手(カストラート…去勢された男のソプラノ歌手も沢山おりました)のアリアを聴きに(観に)行く」ことを意味しました。当時の演奏会は、ちょうど、大相撲の栈敷席(さじきせき)のように、飲んだり食べたりおしゃべりしたりといった社交の場で、とはいっても、我々のような一般大衆は演奏会場に一步たりとも入ることはできませんでした。

開演前とはとにかく騒々しく、開演するときにはその騒々しさをなんとか静めなければなりません。そこで聴衆の「ガヤ静め」の目的のために演奏された、開演前のサービス音楽(序曲)が交響曲の第1楽章だった。ということです。なるほど、モーツァルトの交響曲の第1楽章は殆どすべてが、f(フォルテ)の強奏で始まっているので納

国際アマチュアオーケストラフェスティバル'99 in ICHIKAWA 第27回全国アマチュアオーケストラフェスティバル市川大会

8/6

世界アマチュアオーケストラ連盟国際会議

8/7

市川大会開会式・ジュニアオーケストラ演奏会・アマチュアオーケストラ研究協議会

8/8

シニアオーケストラ演奏会

Aオケ・指揮: 田久保裕一 ボロディン: 交響曲第2番

Bオケ・指揮: 金 洪才・コンサートマスター: 深山尚久

レスピーギ: 交響詩「ローマの祭」

Cオケ・指揮: オンドレイ レナルト・コンサートマスター: 豊田弓乃

ドボルザーク: 交響曲第7番

主催: 社団法人 日本アマチュアオーケストラ連盟

特別協賛: トヨタ自動車株式会社 千葉県トヨタ販売会社グループ

後援: 文化庁 日本芸術文化振興会 千葉県 千葉県教育委員会 市川市 市川市教育委員会

協力: 市川市文化会館 千葉交響楽団協会 市川市芸術文化団体協議会

1999/8/6(金)

-8/8(日)

市川市文化会館

得できます。次に、静かな第2楽章と第3楽章のメヌエツトが終わって、あくまでおまけの器楽曲や協奏曲の間にちりばめられた、いくつものメイン・プログラムのアリアの番になって、ようやく聴衆のお目当てのプリマドンナの登場となり、そのアクロバットの歌唱のテクニクに聴衆のすべてが酔いしれ、喝采し、演奏会が盛り上がったわけです。

現代の演奏会でもよくある光景ですが、演奏会も大詰め、アンコールのおねだりが続き、盛り上がり過ぎてなかなかお開きとなりません。そこで、すかさず第一曲目に演奏された交響曲の終楽章が威勢よく始まり、聴衆はそれを聴きながら、そそくさと演奏会場から出て行ったとのことです。要するに、交響曲の終楽章は演奏会終了の合図と、お客を早く帰宅する気持ちにさせ、演奏会場から追い出すための音楽だったわけです。したがって、交響曲のフィナーレ(終楽章)はその曲のフィナーレのことではなく、その交響曲で始まった演奏会そのもののフィナーレを指しています。やはり調べてみると、モーツァルトの、どの交響曲の終楽章のテンポもかなり速く、威勢のよいことがわかります。実に意外なことですね。

ついでにもう一つ意外な事実。当時のオーケストラはどんな曲の場合でも決してステージの上では演奏できませんでした。オーケストラ・ピットと呼ばれるステージ手前の低くて暗いスペースがオーケストラの定位置と決められていたからです。オペラやバレエの伴奏状態を常にやっていたようなもので、プリマドンナや協奏曲のソリストだけしかステージに上がることができませんでした。

交響曲が器楽合奏曲の代表に昇格し、ステージの上に乗ることができるようになったオーケストラによって、演奏会のメイン・プログラムとして全楽章を分割される

ことなく演奏されるようになったのは、実は19世紀になってからのことです。

交響曲第36番「リンツ交響曲」K.425について

1783年のモーツァルトは27歳。父親の猛反対を押し切って結婚した新妻コンスタンツェを連れての、ザルツブルクへの父親詣での里帰りからの帰宅途中に、滞在した古都「リンツ」でお世話になった、トゥーン伯爵の要請に応えた演奏会に間に合わせるために、なんと、たったの4日で作曲した交響曲です。皆様方が、この「リンツ」交響曲がたったの4日という短期間で作曲されたといういきさつを、ほとんど疑いなくなる程すばらしい内容の作品であることが、演奏の出来はともかく、しっかりと確認できるよう祈りながら演奏したいと思います。

— 訃報 —

毎回、私ども市川交響楽団協会の演奏会場で維持会員、賛助会員の入会継続手続きの窓口をご担当いただいております松丸隆夫氏は昨年12月25日に胆管炎のため逝去されました。

松丸氏は市響ジュニアオーケストラの創設期に育成会副会長を担当され、同団の立ち上げに数多くのご協力をいただきました。

その後、長期にわたり市響会員の窓口業務を引き受けられ、亡くなる3日前、12月23日の「市響ファミリーコンサート」の時も体調不良ながら受付のテーブルで会員の皆様の対応をしておられました。

本紙面をお借りしてこれまでの松丸氏の市響の活動に対するご協力を深く感謝するとともに、ご冥福をお祈り申し上げます。

市川交響楽団事務局

本日の出演者

♪ パートリーダー・パートトップ

| | | | | | |
|-----------|-----------|--------|-------|--------|--------|
| コンサートマスター | ヴァイオリン II | チェロ | フルート | クラリネット | 山本 恭子 |
| 福原 祥子 | 鎌田 真貴 | 池田 寛之 | 菊池 啓介 | 井垣 貴嗣 | |
| | 北原みずほ | 沢田 恵子 | 鈴木 重則 | 一瀬 直美 | トランペット |
| ヴァイオリン I | 木本 幸子 | 瀬川 清 | 宮崎 麻子 | | 安藤 宣明 |
| 上原 剛介 | 沢田 健 | 田頭 扶 | 村上 信乃 | ファゴット | 榎 泰一 |
| 笠松 秀臣 | 沢田 紀之 | 土屋 卓志 | | 金坂 哲 | 新井本昌宏 |
| 亀井 玲子 | 鈴木 薫 | 中村 公一 | フルート | 菅原 斉 | |
| 島原 千晶 | 須永 恒雄 | 根岸 朋子 | 木村 純一 | 高橋 幸世 | トロンボーン |
| 堂本 祐司 | 高田 賀夫 | 野中 能久 | 佐藤 洋行 | 古屋 文弘 | 佐野 義人 |
| 永田 匡 | 竹内 まり | 樋口 進 | | | 古屋 じゅん |
| 二宮 伸雄 | 根守 弘和 | 日澤 優 | オーボエ | ホルン | 古屋 義和 |
| 福原 亜希 | 久田しげ子 | 福原 耕二 | 二村 直子 | 近藤 利昭 | 藪崎 裕至 |
| 横田富美子 | 平野 弘子 | 山口 勝規 | 深町 和良 | 嶋村 恒夫 | |
| 吉岡 一郎 | 福原 崇 | | 山地 順子 | 林田 朋子 | ティンパニ |
| 吉野 淳子 | 三木美千子 | コントラバス | 吉田 史朗 | 藤井 茂司 | 谷口 仁美 |
| | 溝田 範子 | 池田 和正 | | 山内 正晴 | |